

令和元年（ワ）第2827号，令和3年（ワ）第447号

「結婚の自由をすべての人に」訴訟事件

原告 原告番号1 ほか5名

被告 国

証拠説明書(2)

令和3年10月29日

福岡地方裁判所第6民事部合議B係 御中

被告指定代理人	平山峻
	佐藤 ちあき
	野村 正嗣
	久保山 寛 国
	後藤 雄 二
	黒田 哲 弘
	浅野 航 平
	周藤 崇 久
	生部 雅 敏
	山本 勇 治

略語は、準備書面の例による。

乙号証 番 号	標 目 (作成者)		作 成 年月日	立証の趣旨
乙18	注釈日本国憲法(2) (抜粋) (長谷部恭男編)	写 し	H29.1.30	学説において、同性婚を保障していないことが憲法24条1項に違反するものではないと指摘されていること等
乙19	家族法(第2版)(抜粋) (窪田充見)	写 し	H25.1.10	同上
乙20	憲法と家族(抜粋) (辻村みよ子)	写 し	H28.4.5	同上
乙21	逐条日本国憲法審議録 第二巻(抜粋) (清水伸編)	写 し	S37.7.30	憲法審議において、婚姻が男女間のものであることを当然の前提としていたことがうかがわれる議論がされていたこと
乙22	「インタビュー 大橋	写	R3.2.1	再婚禁止期間違憲判決を言

	正春・鬼丸かおる元最高裁判事に聞く一憲法訴訟の実務と学説」法律時報93巻2号(抜粋) (大橋正春ほか)	し		い渡した裁判体の一員であった大橋正春氏及び鬼丸かおる氏が、インタビューに対し、同判決の多数意見を導くに当たって同性婚について議論がされたことはなく、同性婚を意識して「当事者」という文言を選んだこともない旨述べていること
乙23	法律学全集23 親族法 (抜粋) (我妻栄)	写し	S40.3.5	一人の男性と一人の女性が子を産み育てながら共同生活を送るという関係に対して特に法的保護を与えることが、本件諸規定の目的であること
乙24	身分法概論(抜粋) (青山道夫)	写し	S25.10.25	同上
乙25	親族法講義(抜粋) (鈴木禄弥)	写し	S63.4.15	同上
乙26	「セクシュアリティの変容」日米女性ジャー	写し	H6.12	明治民法が制定・公布された時期は、同性愛が変態性

	ナル No.17 (古川誠)			欲として扱われるようになった時期よりも前であること
乙27	色情狂編 (抜粋) (クラフト=エビング 著, 日本法医学会訳)	写 し	M27.5.17	同上
乙28	新撰精神病学 (抜粋) (石田昇)	写 し	M39.10.18	同上
乙29	児童教育講座第3巻 児童の情操とその教育 (抜粋) (野上俊夫)	写 し	S11.8.20	同上